松をもめぐる世中をくゝ心乃
あらそひなわらわ　是ハ中納言国
方延山まわ出るる俗まちゝ動
孫の流を清度きゝと多き北
望見まちゝ祖よ世度思ひしちち
四国よ都ハ　四ちもひろゝ
りたへ雲雷水のくゝ方をはゝ

[illegible]ぬ橋の空月旅ふく秋風
きえ所をとへば我ゆくえ
衣手や信濃の里の秋風
うわく　詞
住吉の岸の姫松ふるゆきの
陸奥の千賀の浦なる
思ひ侘ぬる山風のうらへ寒
中略　[illegible]風の宿る
通ふ蛍の色はまさる
人もなくこんもひめ所ふ
[illegible]人も旅やすし　日本詞
無孫の河つらく一夜の宿を
清信　詞　寒ふ出家の住す一
夜ハ利益成へ　[illegible]

ゑみゆく乃きさらぎくさきよに梅乃
こやのいつみさくれ日と陰乃浅
きのはへ葉よしくすなき
いふせかれ共ふりくは雨に立寄
方なし時さわとこそ見し紅く
実や雨降月もく秋紅の一葉を
時こそ紅人とて子は方へ也

此梅露の落葉乃霜はう秋たく共
袖をふるさし気ぞ流る涙あまなや
旅人　西北に雲を起こして
東南小東海雨のあしはやくも
浄晴て月になしも蛍しや飛まで
住吉の松吹風も心して旅人乃
篠を覚えなくく　いまに立小

中へ貴ものは
三十二
こゝに物語りたる太閤殿下を
三十三
藤の太夫乃人不審小さうゝへ
実よくは不審は是人の形見
まゝゝ是なる浦衰成物語乃ロキ
語はてゝ中を中は面白ゝ
浦物語ゝへ
三十四浦後
有難国天王寺に
三十五事ゆくゝゝ
浦留といひ作人有る殿下を
は住吉なる中作人有り
それゝ内裏由緒乃仮名を
あゝうひまに教よのかまに
中は屋くを張りるよゝ
あゝ下やはゝ小思ひ小我
あやまはて討せぬ是は富士り

書おつとの心を出してひてまを
大数をうけて感ひしうれも
法外の世界にかなをてうの道路
なりうに帰て殺るとうへ　かゝ様の
無之
無をうりるといふ悪事をうへの
西之の書の趣をわれひとりて
詞
まうしまうけり
詞
いやとよう行を

りるう行方迷てのも書き世語乃
趣をわれをうしふ
半之
枕草子
枕草子とて世の物語源氏思ひの
色を出て演をなり　世ふるや
詞
なふ四まもも女い思ひ入り強
る悪業乃流るまを世をなるう
半二
おそ行世を流をさうを　猶も

不審い強るまわ形見の大教形
見の大義まはのち仏ふ毋
立ハ者ま成ゆ事大教ハ相ハ
こけむ〜て とる立ちろ思
うの世代ふ ま毋もうひなき
池水乃く〜忘て を毋物を
み立ぬる執心を ちの毋仏へと

以ひすく〜こう業けすちとるに
失まるわ まは仏法様〜まわと
ーをとも法鼻ハ こ神宮寺一
三世乃法佛の出世乃本懐流生
成佛の直さなわ ふうむ法く
女人ま仏物乃へ ちに一夫不法
地獄天ま二者毋物三夫麓ま四

老婆婆五十六佛為云何如為
衆生說佛母般若波羅蜜多
ふりさけ見れば
かすみ
立一不成佛と
仲人
はかめ
夢り現りみたわともなき姿
ふしきや那みまた女性の姿
かすみ羅乃衣裳を
なるとかつとのひるるや梅ハ
色香の玉色霊ゆゑ
まとひの富士の素
実や鶯むの寒な

蓬きわかくよりたひとわり
方ひとよりまつ神さまぬうや
まわ那のぬまゆ多ひの愛持よ
あり〳〵袁成男子の海とはなもや
浦塩一路ちぬうしは
こゝ下西
はゝ母ひのちうまう里
方乃者を滅悔小かうわやさん

さうゆくも那のうなゝ
窓話をりさ飛て永〳〵忠新よ
堡一巻面よさきはゝ女心
の乱髪いひうなくも悪太乃
素乃形見を裁きは物衣を義志
はゝ巻ふ代一四太数の
元一一年
もさひふよもせひ源安姫乃

ト二二ト一一、一八九一二二ト、一一
枕のうへの殘る枕にのこりし
一一一一一一一一一一一一一一一一
ほのぼのと備所の山ほとゝぎす
一一一一一一一一一一一一一一一一
こゑ一こゑ上一一一一一一一一一
その數や　思ひ出る一志の
一一一一一一一一一一一一一一一一
發句は屋まゝ光なるわつらひ
一一一一一一一一一一一一一一一一
さらぬそうの藥なわと有人乃表
一一一一一一一一一一一一一一一一
なを世を思ひ一くひとはまを
一一一一一一一一一一一一一一一一
爲も位言の葉ふてゝ歌
一一一一一一一一一一一一一一一一

ト一一一一一一一一一一一一一一一一
なまを世を祈やをまゝ我ん樂を
一一一一一一一一一一一一一一一一
あきをきぬのつゆ上半地ム
一一一一一一一一一一一一一一一一
うゝ巻を外へや　実ぶもしろや
一一一一一一一一一一一一一一一一
四一くゝ盛悔の　藥をう歌てゝ
一一一一一一一一一一一一一一一一
養養の心を拾へ　ゆゝく
一一一一一一一一一一一一一一一一
さゝゝ安枕乃雲　きわをりゝ
一一一一一一一一一一一一一一一一
ゝ月もなの世　なわ世は樂を

[illegible]もとも住吉の
[illegible]
まつのひかりわかの浦の秋
波もたゝぬ松へる漢陸うゝ　澳も
志賀うふ事海の事海の波
加茂　五月雨や袖の折をえて
新潟の梅　梅　菅乃　きなくや
むの越殿樂　うゝんやうゝ
梅うえ　梅　菅
ひをなへ風ふ
花よ春と雨うゝひす　西向や
菅のくゝ古雨よ海引きゝまて
兼乃うけよまて　わまも
清法ふひ光ゝ　うりまゝ
月前よ立ゝふ葉の袖ゝ秋ゝ

女乃おもと我さへ
樂の數うたを乃
思へさへ
なを我も
音樂乃なとを
有しの事を
さわやの